

嬉野医療センターを受診された患者さまへ

研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	心房細動アブレーション患者における Grid 型電極を用いた左房双極電位波高マッピングに関する後ろ向き研究
研究責任者（所属名）	山口 尊則（佐賀大学医学部 先進不整脈治療学講座 職名 教授） 施設研究責任者 下村 光洋（国立病院機構嬉野医療センター循環器内科部長）
本研究の目的	<p>アブレーション治療とは、心臓の拍動リズムに異常をきたして脈拍数が多くなる「頻脈性不整脈」という病気に対し行われる治療方法です。足の付け根などの太い血管からカテーテルを入れて、心臓内部の不整脈の原因となっている部分を高周波電流で小さく焼き切る治療方法です。</p> <p>マッピングとは、心臓内部の異常な部分を探す作業のことです。心臓の異常な部分を示す”地図（マップ）”をつくる作業です。カテーテルの先に電圧を計測するための電極がついていて、それで心臓の内壁に接触させながら心電図を計測します。この計測によって、今カテーテルが接している部分が異常な部位であるかがわかります。正常な組織とそうでない組織をより精緻に区別する詳細なマップを作成することが、アブレーション治療を受ける患者さんにとって最良の結果をもたらすためには重要です。カテーテルマッピングによって医師は心臓の内側を視覚化し、それを頼りに心臓の構造にそってカテーテルを進め、より正確にアブレーションを実施することができます。</p> <p>新しい電極（販売名：Advisor HD グリッドマッピングカテーテル SE、アボット）が、2018年9月に保険使用可能となりました。この新しい電極により、従来のマッピングカテーテルでは見逃されがちな電気信号を視覚化することができるといわれています。</p> <p>本研究では、新しい Grid 型電極による心臓の異常部分を示す電気信号領域の新しい定義と、より安全で効率的な心房細動アブレーション治療の方法を提唱することを目的としています。</p> <p>今後、より多くの患者さんの診療・治療情報を集積し、不整脈のメカニズムと最良のアブレーション治療の方法を検討する多施設共同研究を予定しています。本研究成果を多施設共同研究に役立てることも目的としております。</p>

調査データの該当期間	2018年10月1日～2019年12月31日
研究の方法 (使用する試料等)	診療録より対象となる方を抽出し、研究 ID を付与し匿名化を行います。 診療録より対象となる方に関する既存情報（身体所見、病歴、飲酒歴、血液検査値、内服薬、アブレーション治療前の心機能検査値、アブレーションの内容等）を収集します。
個人情報の取り扱い	利用する情報から、氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：0954-43-1120（代表） 担当者：管理課長
備考	